

## 平成27年度第3回文化財審議会会議録

- 1 開催日時 平成28年2月8日(月)午前10時から正午まで
- 2 開催場所 我孫子市教育委員会 大会議室
- 3 出席者 (委員)  
梅村恵子会長、金丸和子副会長、浅間茂委員、佐野賢治委員、  
西川誠委員、河東義之委員、古里節夫委員  
(事務局)  
文化・スポーツ課辻史郎課長補佐、須藤剛主査長、田中友紀恵主任主事
- 4 挨拶
- 5 議題 ヒカリモ発生地の指定について(諮問)
- 6 そのほか
  - 1) 根戸船戸遺跡出土の頭椎大刀について
  - 2) 平成27年度発掘調査の実績報告について
- 7 公開・非公開の別 公開
- 8 傍聴人 なし

### 9 議事概要

辻課長補佐 本日は、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。平成27年度第3回文化財審議会を開催いたします。傍聴人は、おりません。早速ですが、梅村会長、議事進行をよろしくお願いいたします。

梅村会長 平成27年度第3回我孫子市文化財審議会を開催いたします。事務局に資料の確認をお願いします。

辻課長補佐 資料を確認します。「会議次第」が1枚、資料1として「諮問書」の写し、資料2として「調書資料」、資料3として「文化財指定同意書」の写し、資料4として「平成27年度発掘調査」、最後に「市指定文化財候補一覧」になります。お手元の資料をご確認ください。

梅村会長 よろしいでしょうか。では議題に入ります。「ヒカリモ発生地

て」事務局から説明をお願いします。

辻課長補佐 それでは議題「ヒカリモ発生地の指定について」説明します。前回の会議で  
ご意見等をいただき、本日は、それを受けまして、指定について諮問いたしま  
す。こちらが諮問書になります。会長にお渡しいたします。よろしくお願いい  
たします。

梅村会長 それでは諮問書により、ヒカリモ発生地の指定について審議を行います。事  
務局から諮問内容について説明をお願いします。

辻課長補佐 ヒカリモについては、資料の最後になります市指定文化財候補一覧の経過欄  
に記載がありますように平成23年度と26年度の審議会で情報を共有し、昨年、  
発生を繰り返す谷津ミュージアムの発生域を視察、前回の審議会で指定に向けた  
事前の審議をお願いしました。本日、これらの経過を踏まえ「ヒカリモ発生地」  
を市の指定文化財にするため諮問いたします。なお、指定に伴う所有者等の同意  
につきましては、資料3の文化財指定同意書の写しのとおり、平成28年1月7  
日付けで所有者になる我孫子市長の同意を得ております。ヒカリモ発生地に関す  
る調書につきましては、お手数をお掛けいたしますが、浅間先生からご説明いた  
だければと思います。よろしくお願いいたします。

梅村会長 浅間先生、よろしくお願いいたします。

浅間委員 調書について説明いたします。ヒカリモは、非常に小さなプランクトンです。  
顕微鏡でも粒にしか見えません。鞭毛が2本生えています。分布的には、福島  
県、兵庫県、長野県、東京都、千葉県などで発生が確認されています。一番北  
では、宮城県の伊豆沼の底泥から培養したところ発生したという報告がありま  
す。いずれも日当たりの良い場所ではなく、洞窟とか湧水が出ているような所  
で発生しています。やはり様々な植物プランクトン同士の競争がありますので、  
そのような環境要因が非常に大事なかと考えています。先に述べましたが、分  
類では難しい面があり、種が異なる場合があります。今回は、電子顕微鏡で確  
認をしましたが、非常に難しい所です。DNAの鑑定によっては、若干、異な  
る可能性があります。大きさは、2.5～3μmです。非常に小さく、鞭毛が  
1本から2本あります。普段は光りませんが、重なり、立ち上がった時に金色  
に輝きます。輝きは続きません。見る角度により、金色の光は見えなくなりま  
す。天候が安定している時に、発生が見られます。日本での最初の発見地は、  
千葉県富津市竹岡です。発生場所は、海食洞窟の中の池です。発生は6月頃と  
のことです。今回の谷津ミュージアムでは、冬季以外は不連続に発生していて  
見られる期間が長いようです。柏市でも個人の甕の中に発生したヒカリモを指  
定しましたが、15年程前に発生しなくなり解除しています。小さな微生物で

すので、条件によっては発生しなくなる可能性があります。北総地域では、湧水の場所で所々に見ることがあります。ただし、今回の指定地のように10年に亘り発生を続ける場所はありません。強く光る場合があっても翌年か、長くても3年程で見られなくなります。この場所はある意味で非常に条件が良い、環境がほぼ同じということで、引き続き発生すると思われます。発生する池は、落葉が積もることで浅くなりますので、様子を見ながら掘り下げる必要があります。何故光るのか、研究は進んでいません。光を吸収し、光合成をし、蛍光として発生すると考えられています。文末に書きましたが、一定期間発生が見られない場合は解除が必要であり、その期間は3年が適当だと思います。以上です。

梅村会長 ありがとうございます。本会に提出された文化財指定同意書は、こちらになります。よろしければ、お手元の諮問書の写しに基づきまして審議に入りたいと思います。何かご質問、ご意見などございましたらお願いします。

河東委員 市が所有者なので大丈夫だと思いますが、調書で最後の6、7行目から「放置しておく……」無くなるということで、4年に一回くらいは掘り下げが必要というその後の手入れと、解除もあるということですが、指定の時に会長名でこの内容を文書で付け加えるということが出来るのでしょうか。

辻課長補佐 これまでの指定で書面を付けたという記憶はありません。谷津ミュージアムを管理している手賀沼課とは、指定の内容について協議を重ねておりますので、この事業に参加している市民の会と連携して維持されて行くものと思われます。

須藤主査長 この件につきましては、指定に係る同意を手賀沼課に依頼するにあたり、指定に伴う基本的事項と解除の要件を記載した書面を添付しております。添付した書面は、こちらになります。

辻課長補佐 このようなケースは、あまりありません。

河東委員 放置が出来ないことは、書面でなくとも手賀沼課に伝える必要があるかと思ひます。今回のような解除の可能性を考えた文化財の指定は、非常に珍しいかもしれません。

辻課長補佐 手賀沼課と連携して現状維持に努めることは、谷津ミュージアムの事業趣旨でもあり、その結果として発生するという関係を心掛けたいと思ひます。

梅村会長 従来とは異例な扱いになりますが、ヒカリモの発生地については、ホームページでも公開される本会の会議録により環境の維持が含まれていること。それから解除については、調書のとおり継続して3年間発生が見られない場合に行うことでよろしいでしょうか。

(意見等なし)

梅村会長 浅間先生、ヒカリモは分からないことが多いとのことですが、研究は進む可能性があるのでしょうか。

浅間委員 各地で高校生が、大学では卒論で取り上げられているようですが、場所により状況が異なり、生き物は様々な要因が関わってきますので、水温やpH（水素イオン指数）、光の問題や何かの競争の問題とか、だから実験室で行うものと自然環境下のものとの結び付けるのは難しく、そういう意味で研究が進んでいないということです。逆に言えば、ここで指定されるとヒカリモが身近な場所にあるということで、近くの高中生や学生などによって研究が進められれば有難いです。指定文化財と言ってもプランクトンですから持ち帰ることも出来ません。持ち帰っても時間が経てば消えてしまいますが、いろいろな実験を行うことができると思います。

梅村会長 指定することで市民の方とか学生の関心が高まるということでしょうか。

浅間委員 関心を持って貰えるのかな、それと谷津ミュージアム全体のポイントになって谷津ミュージアムを訪れる人が増えるのかなと考えています。この前のことですが、谷津ミュージアムを歩いていたら事業に参加するボランティアの人達が文化財に決まりそうですねと、非常に喜んでいました。文化財に指定されることが、この事業の励みにもなるのかなと思いました。

梅村会長 他に何かありますでしょうか。

(意見等なし)

梅村会長 それでは、これまで指定についてご意見を伺いましたが、審議の結論として「ヒカリモ発生地」を市指定文化財として指定することについてご異議はございませんでしょうか。

(異議なし。)

梅村会長 本会は、諮問を受けました「ヒカリモ発生地」について、原案のとおり市指定文化財の指定に値するものとして答申します。

辻課長補佐 ありがとうございます。答申書は事務局で作成し、この後、定例教育委員会に議案として上程したいと思います。答申書は、後ほど、会長にご確認をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

梅村会長 以上で議題が終わりました。そのほかとして事務報告に移りたいと思います。事務局に説明をお願いします。

辻課長補佐 初めに、「根戸船戸遺跡出土の頭椎大刀について」報告します。資料は添付しておりません。平成26年に我孫子市白山3丁目の根戸船戸遺跡1号墳の発掘調査の過程で出土した頭椎大刀など4振、その他に様々な金属製品がありましたが、そのままですと腐食が進んでしまうので1年半を掛けて外部業者に委託

して保存処理を行いました。先日、その結果となる物が保存処理先から帰ってきましたので、この場で現物をご覧いただきたいと思います。メインになる物は、頭椎大刀です。他の大刀は鉄の大刀で、鞘と木質が若干残っているものがありました。この1点は、銅で柄と先端部の握り拳型の物が付いていて、所謂、金銅装大刀ということになります。全長は1.2mです。刀身では1mです。千葉県史の資料編を参考にしますと、全県下では12点になりますが、頭椎の部分のみとか、金具の部分のみでのカウントも多く、大刀の全容が分かる出土は、稀少と思われます。「古事記」に頭椎大刀が出てきますが、分布域としては、西は兵庫県から東海、関東に偏在している状況です。恐らく大和王権が作製に携わり、勢力を拡大する中で豪族に刀を配布して権力の象徴として渡したのであろうと言われていています。県内でも出土している古墳は、木更津の金鈴塚古墳、香取市の城山1号墳、山武市の殿塚古墳に大堤権現塚古墳になりまして、今回、大きさでは30m程の小型の古墳ですが、60、80、100mクラスのその地域を代表する首長墓に入るような刀なので、逆に我孫子辺りで手賀沼の小古墳に入ることは異例であり、大和王権が我孫子に着目していたことが分かるのではと、非常に意義深いものと思います。今回の出土品は、ほぼ全面に緑青が湧いていて詳しいことが分からない状態でしたが、柄の場所には蕨手のような模様が施されていることが分かりました。今後は、刀を専門にする方に話を聞きながら報告書に向けて作業を進めたいと考えています。それと鉄鏃、耳飾の類も出土しており、特に鉄鏃では、根の数ですと120本以上になります。石製の壁面に4振り置かれ、人骨の出土状況から2回は改葬されているように思われ、鏃については、一番北西の角に集められたような状態でまとまって出土しました。石製品としては、勾玉、管玉の類が出土しましたが、非常に数が少ないので盗掘等に合っているかもしれません。石室が崩落していた壁側に残ったとも考えられます。古墳の年代では6世紀末から7世紀頭にかけてで、我孫子の駅南西辺りですと終末期の古墳が多い場所です。大刀にはX線で見ても刻印などなく、所有者も分からない状況です。名前は残されていませんが、国造のクラスの者か、地域の小豪族なのかは不明ですが、品物としては大和との繋がりを覗かせるということです。古墳の形は、前方後円墳が崩れたような通称ダルマ型で、古墳づくりが終焉を迎える時代でもあり、地域で進化したような形状です。頭椎は魅せるための装飾ですが、大刀として使えたと思われます。保存処理は、京都にあります吉田生物研究所という木質や金属を専門に保存処理する会社に委託しました。保存処理過程は、調書として記録されています。今回の費用は、350

万円程です。今後は、腐食の進行を定期的なメンテナンスで抑える必要がありますが、このような逸品は、出来れば常に市民に公開したいと考えます。この出土品は、2月20日から5日間で市民プラザを会場に展示ケースに入れて一般公開する予定です。また、機会があれば“列島展”に志願できればとも考えています。

梅村会長 ありがとうございます。只今の報告について、ご意見などがありましたらお願いします。

古里委員 通常の保管場所は、どうなりますか。

辻課長補佐 今は、これからの展示計画に備えて教育委員会事務室に置いてありますが、展示が終わりましたら文化財整理室の金属の保管庫、低温ではなく低温保管庫ですが、当座の保管場所になります。出来る限り安定した保管を考えています。

浅間委員 先程の緑青の話で、カビは有機物から栄養分を取って生活しますが、細菌は無機物や有機物を酸化してエネルギーにします。無機物の金属を酸化してエネルギーにして増える細菌の腐食は、無酸素状態にすることで抑えられるかなと思います。

佐野委員 屋根の緑青は一般的ですが、そうではない緑青があるとのことですが。

古里委員 色が濃い盛り上がりで本体を粉にしてしまう腐食を見たことがあります。

河東先生 建物を見ると、緑でも微妙に白いものもあります。

佐野委員 屋根材ですと、寿命はどの位でしょうか。

河東先生 江戸期のものは残っていますが、初期のものは殆ど無いかもしれません。優れた屋根材として銅（あかがね）は、恐らく金に次ぐものになります。名古屋城の屋根、弘前城の天守閣の屋根が銅板葺です。名古屋城は残念ながら戦災で焼失しています。通常は薄黒く酸化被膜ができることで腐食を抑えます。

辻課長補佐 鍛造した鉄は残りが良く、薄い合せは剥がれると言われたことがあります。鑄鉄は剥がれませんが、一気に崩れる時があると聞いています。砂鉄でつくられているからと考えられます。錆の進行を考えると、経過観察が必要と考えています。

浅間委員 埋蔵された場所は、酸素との接触がなく、還元といった状態でしょうか。

辻課長補佐 土に埋まっている状態は、殆ど酸素が無く、温度と湿度が安定していると思われれます。発掘した時は、非常に緑青が鮮やかで、驚く程の緑の光沢を感じました。埋蔵物を中心に扱う上野にある東京文化財研究所の話によると、保存修復では出来る限り早い対応が望まれるということでした。

梅村会長 ありがとうございます。それでは次の事務報告に移りたいと思います。事務局に説明をお願いします。

辻課長補佐 平成27年度の発掘調査について報告します。一覧表に従い担当から説明します。

田中主任主事 平成28年1月末現在で一覧表にした平成27年度の発掘調査15件の実績について、表の記載に従い上から順に各遺跡の調査結果を報告する。

梅村会長 ありがとうございます。只今の報告について、ご質問などがありましたらお願いします。

浅間委員 下ヶ戸貝塚では、貝は見つかっていないのでしょうか。貝は出土遺物に入らないのでしょうか。

辻課長補佐 自然の物は、遺物の扱いになりません。調査では、掘削土を掘削場所毎と深さ毎に区別してメッシュ方式で記録し、現在、その掘削土を布佐整理室で篩にかけて貝の種類と分量、例えばこの場所で、この層で、ヤマトシジミがどれ位とか、下層では海成の貝類が出てきますので、アサリやハマグリといった分布を確認します。

浅間委員 それは、生きていた貝ですか、食べた後の貝ですか。

辻課長補佐 食べて捨てられた貝です。また、魚骨、獣骨、鳥骨も分類し、分量も計測して確認する予定です。

古里委員 下ヶ戸に人骨とありますが、どのような状態ですか。

田中主任主事 2体が出まして、1体は状態も良く足を曲げた形で、1体は太い骨のみで形が無い状態でした。

辻課長補佐 恐らく屈葬により埋葬され、上に貝層が形成されて残っていると思われます。

古里委員 掘り込みは出ていませんか。

辻課長補佐 はっきりは出ていませんが、恐らく掘って埋められたと思われます。人骨が出土した地層は、土器などが様々に出土する遺物包含層ではっきりとした形はありませんでした。

古里委員 貝殻では、成長線がありますが。

辻課長補佐 全部の確認は無理があります。サンプルを取って傾向を見たいと思います。下ヶ戸貝塚は、今年度で報告書をまとめて3年で、残す2年の作業に本調査が含まれています。

梅村会長 下ヶ戸貝塚は、どの辺りでしょうか。

辻課長補佐 川村学園女子大学に隣接する保育所南側の丘の上です。この辺りは、道際に貝が散らばっている場所で、今回の本調査で明らかになりました。

古里委員 昔、下水遺跡を見た時のことですが、恰も袋に入っていたかのようなひと塊の輪郭を覗わせる状態の出土はありましたでしょうか。

辻課長補佐 土の部分、貝が集まっている部分の粗密は50cmの幅で確認できました。

上層は耕作等により攪乱されていましたが、表土から深さ10cm位になると良好な部分がありました。ただ時間的なこともあり、そこまで認識しての作業ではなく、断面で堆積する様子を見ながら掘り進める状況でした。

浅間委員 その中にはくっ付いているものがありましたか。

辻課長補佐 くっ付いているものがありました。これまで意識して見ることは無かったのですが、今回も大半のものが開いていましたが、どのような形で貝を選別して利用したのか、興味を持ちました。一般的に縄文土器で煮たりすると、出汁取りとか、食で利用した廃棄物と思っていたところ閉じた貝に至る所で見ました。思いのほか多いという印象を受けました。

古里委員 貝塚では、結構の量が出てきます。基本的に貝塚には、浜貝塚と集落内貝塚があって、浜貝塚は海から採った貝を浜で処理し交換用の干し貝などを作った後に廃棄したものと思われ、しばしば大量の貝が厚い層をなして発見されます。集落内貝塚は貝を集落に持ち帰って土器を使ってスープなどを作って食べた後に廃棄したものと思われ、通常、量は少なく稀に一回分の使用量が分かる状態で発見されることがあります。

金丸副会長 確認調査を行った場所は、本調査と重なるのでしょうか。

辻課長補佐 確認調査とは、全体面積の10%位を掘り、遺跡の有無、有れば程度を確認します。掘り方は、幅1m位、深さ50cm位の細い溝を掘り、住居跡の軒数などを確認します。何も確認が出来ない場合は、本調査への移行はありません。遺跡が出た場合は、本調査を行う区域を決める協議を申請人で行い、その区域は表土50cm位を取り去ります。これにより確認調査では把握できない部分も明らかになり、確認調査と結果が異なる場合があります。住居跡の広がりや重なり具合などによっては、本調査結果で増えたり、逆に減ったりということがあります。

梅村会長 他に何かありますでしょうか。

(意見等なし)

梅村会長 以上で今日の議題と報告は終わりますが、他にご意見等があれば伺います。

(意見等なし)

梅村会長 本会は以上を持ちまして閉会といたします。

以上